

1. トピックス「点眼薬の正しい使い方について」

今回は、点眼薬の正しい使い方（順序、間隔、方法など）について紹介します。

●点眼薬のタイプについて

点眼薬には、性質によって主に5つのタイプに分けられます。

タイプ	特徴	代表的なお薬の商品名（規格は省略）
水溶性点眼薬	有効成分が水に溶けやすく、安定している	クラビット点眼液、キサラタン点眼液など
懸濁性点眼薬	有効成分が水に溶けにくく、吸収が遅い 懸濁性のため使用前によく振る	フルメトロン点眼液、ネバナック懸濁性点眼液など
油性点眼薬	有効成分が水をはじきやすく他の目薬の吸収を阻害してしまう恐れがある。効果発現が緩やかで長い	インドメロール油性点眼液など
ゲル化点眼薬	ゲル化する基剤を配合しているため目の表面に溜まり作用が持続するため他の目薬の吸収を阻害してしまう恐れがある。	チモプトールXE点眼薬など
眼軟膏	有効成分が水をはじきやすく他の目薬の吸収を阻害してしまう恐れがある。効果発現が緩やかで長い	タリビット眼軟膏、ゾピラックス眼軟膏など

●点眼薬を複数使用する場合

複数点眼する場合の間隔は、少なくとも5分程度の間隔をあけて下さい。



点眼間隔が短いと先に点眼した薬液が、後に点眼した薬液によって洗い流されてしまい十分な効果が得られないことがあります。複数の点眼薬を使用する場合には、点眼順序の指示があればその指示に従って下さい。特に指示がない場合には、次の順序でさすことが推奨されています。

水溶性点眼薬 ⇒ 懸濁性点眼薬 ⇒ 油性点眼薬 ⇒ ゲル化点眼薬 ⇒ 眼軟膏

●点眼薬の使用方法

- ①手を流水と石鹸でよく洗い、手を清潔にする。
- ②下まぶたを軽く引き、上を見るように顔を傾け 1～2 滴（滴数に指示がある場合には、その指示通りに）を確実に点眼する。その際、容器の先がまぶたの縁やまつげに触れないように注意する。
- ③涙点という目頭にある涙を鼻に流す排出口から目薬が流れ出ていかないように、しばらくまぶたを閉じるか、目頭を軽く押さえる。目薬が流れ出ていってしまうと薬の効果が発揮できません。
- ④目の周りにあふれ出た目薬は清潔なガーゼやティッシュで拭き取る。



<点眼薬の気になるあれこれ - Q&A - >

Q. 上手にさせない場合はどうすればよい？

げんこつ法（利き手で容器を持ち、反対側の手でげんこつを作り下まぶたに当て、引き下げる。その後げんこつの上に点眼薬を持った手を乗せ安定させて点眼する）を一度試してみてください。点眼薬をもった手を安定させるのがポイントです。



Q. 1回の点眼量はどのくらい？

1回の点眼量は、確実に点眼できれば片眼 1～2 滴ずつで十分です。それ以上点眼しても、目の外にあふれ出たり、鼻に排出されたりします。指示がある場合には、その指示に従ってください。

Q. さし忘れた場合はどうすればいい？

気がついたときに直ぐ 1 回分を点眼してください。ただし、次の点眼するタイミングが近いときは、忘れた分を点眼せず次の点眼時に 1 回分を点眼してください。

Q. 開封してからどのくらい使用期間があるの？

容器に記載されている使用期限は、未開封の状態での適切な保管方法を行った場合の期限です。

開封後の使用期限は、使用方法・保管方法を守り 1 ヶ月を目安にしてください。ただし、開封後 1 ヶ月以内であっても、点眼薬内に異常（変色・異物・濁りなど）が見られた場合には使用を中止してください。